

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口の見やすいところに理念をかかげている。理念を共有しスタッフ、入居者様と共に家庭的な空間づくりをし役割を持って過ごしていただけるように実践につなげていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年くるみ保育園の園児が来訪され歌を歌って下さったり近くの公園での運動会の見学をしたり敬老の日などの行事の際はハガキを頂いたりなどの交流を行っている。地域の方のボランティアでのハーモニカ演奏などもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度作成するレインボー2便りにて写真も共に掲載しホームでの生活の風景や裏面のご存知ですか？にて介護や認知症の方への対応などの掲載も行い地域の方への理解に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議では入居者、家族、町会長、地域の方、市職員などの方と集まりホームでの入居情報や行われた行事の様子をお伝えしている。会議内で家族などからのホームへの意見をお聞きしサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいた際などサービスの実情や空き情報などの情報交換を行い協力できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上21時に施錠されるも朝は6時より開錠し日中は出入りは自由である。声かけの仕方や入居者様との関わりについても会議などでも話し合いスタッフ同士気になる点は声かけし注意しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	起床、就寝、入浴など更衣の際に体全体をチェックしあざがないかをみる。あざのできやすい人にはクッションをはさんだり腕にアームウォーマーをつけるなどし防止につとめている。小さなあざも見逃さない様にユニット会議で話し合い虐待防止について学ぶ機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2階では成年後見人制度を利用されている方はおられず全ての職員が制度について理解できているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時は十分な説明の時間を持ち利用者、家族の不安や疑問に思っていることをお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時などに家族からの要望、思いなどを会話の中からさりげなくお聞きし会議などで話し合っている。玄関には苦情、相談窓口の連絡先を掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や思いを聞く機会は常にあり、ユニット会議内でも職員の思いを聞いている。代表者には本部会議の際に、職員の意見や思いを伝え反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、能力給などもあり、各自が向上心を持って働ける様にされている。公休希望をとることも可能である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は研修を受ける機会があり職員一人ひとりの力量を把握しながら指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修生の受け入れを行っており、その際お互いの施設での取り組みを話し合うなどしながら、サービスと質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後に家族から情報をお聞きしたり本人との会話の中からさりげなく困っていること、不安に思っていることをお聞きし職員で共有しながら安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時面会時に家族の困っていることや不安に思っていることを会話の中からお聞きしたりホームでどのように生活してほしいかなどもお聞きし相談しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、職員同士で本人がその時にどのような支援サービスが必要かを話し合いその人その人にあつた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にお聞きしながらごみ捨て、洗濯たたみ、買い物などを共に行い会話しながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さりげなく会話に入りつつ日常の様子をお伝えしたりしながら家族相談しながら共に支援できるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた際はゆっくり過ごせる雰囲気を作り関係性が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よく周りの方に「大丈夫か？ばあちゃん、気をつけなんよ」「おいしか？」など話しかけておられる。中にはあまり話されない方もおられるが、職員が間に入ったりすることで他の方が歌われていると一緒に口ずさまれたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後に頼み事をされる方もおられたり必要に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子、会話から思いなどをお聞きし記録に残し職員同士共有し会議などでも話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入る前はどのように生活しておられたかなどの情報を家族にお聞きしたり本人との会話の中からお聞きして職員同士共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースにて過ごしていただきその時の本人の様子などを確認しながら簡単な掃除や家事など有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を取り入れよりよく暮らすためにはどのようにしたらよいかを職員同士話し合いケアプラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月間の様子を見て気付いた点、結果を記録やセンター方式を活用し評価を行い、職員同士共有し見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病院の受診に行けない時は職員が付き添い受診の支援をするなど、その時の状況に応じて家族とも相談しその時に必要なサービスを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヤクルトの販売が来たり近くの床屋さんが来られたり地域の方がハーモニカ演奏に来られたりしてお地域資源を活用し、り利用者が楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院へ行かれる方もおられるが入居の際に家族、本人と相談をし決めていただきそれにそった支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、気になる点に関してかかりつけ医、病院の看護婦さんに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、入居者の生活をお伝えしたり、退院時には入院中の様子や退院時期などについて病院と情報交換したり相談しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、ホーム長、家族と十分な話し合いを行い同意書を交わし、職員同士共有し支援に取り組んでいる。いつ何時でも連絡を取り合い必要な時はすぐにドクターに連絡できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、会議や日頃気になる点については十分な話し合いをおこなっているが定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	マニュアルもあり緊急時などはホーム長、副ホーム長へ連絡し対応する体制もあり、職員同士協力しながら対応もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との体制は確保されている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	3ユニットに夜間は各1名ずつ夜勤者がいる。夜間の緊急時はホーム長、副ホーム長に連絡し対応できるようになっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているもすべての職員が実践力を身につけているとは言えない。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	スプリンクラーを設置し定期的な点検もこられる。各1名ずつユニットにも消火器が設置されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格などを把握し本人の誇りを損ねないような声かけを心がけているも外部の方から聞くと配慮できていない部分も見られるため職員間にて話し合いお互いに注意しあい本人のプライバシーを損ねず支援できるように努めている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや希望を話しやすい空間作りを心がけ自己決定がしやすい質問にしてみたり表情、本人の反応に注意している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペース、希望に合わせて「休みますか？」「どうしますか？」などを声かけしどのように過ごしたいか確認して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色の服を選んでいただいたり家族との外出の際にはお気に入りの帽子をかぶってお出かけされる方もおられる。男性の入居者はマメなひげそりを行い身だしなみに気を付けている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備をされる方は少ないが下膳やおぼん洗い、テーブル拭きなどをしてくださる方もおられる。職員も共に食事をしお好きなメニューや苦手な野菜などを聞いて記録に残したりしてメニューが同じものばかりにならないようにしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し盛り付け、彩りを工夫し目でも楽しめる食事に気を付けている。飲み込みの悪い方にはペースト食、トロミを使用している。水分量の少ない方は本人のお好きなジュースやゼリーなどを召し上がっていただいている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできるところはしていただきできないところは介助している。義歯を付けている方に関しては夜中入れ歯洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行かれない方に対しては排泄チェック表と時間を見ながら声かけをしている。ズボン、パンツの上げ下げなど本人のできるところはしていただき自立に向けた支援をしている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のひどい方は下剤を内服している方もおられる。食事に野菜を多く取り入れたり水分を多くとっていただいたり乳製品を飲んでいただいている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間などは決めず本人の入りたい時にいつでも入れるようにしている。湯舟に入れない方は足浴をしたりもしている。無理はせず本人のペース、体調にあわせた声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由に過ごしていただいている。日中は居室でお昼寝されたりソファにて居眠りしている方もおられる。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の情報をファイルに保管しておりいつでも確認できるようになっている。薬の変更などがあれば職員同士申し送りをして症状の様子を見ていき何かあればかかりつけ医や薬局に報告している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思を確認しながらごみ捨てや洗濯たみ、新聞たたみの声かけにて支援している。新聞などが好きな方は新聞を隅々まで読まれたり天気の良い日は外に出て気分転換をしている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニットの買い物に職員と共に出かけたり家族様と外出される方もおられる。行事に共に出かけたり、出来る限り外出できるように支援している。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として預かっている方がほとんどであるもご自分の持っているお金でヤクルトを買ったりジュースを自動販売機で買われる方もおられる。買い物の際に食べたいものを買われる方もおられる。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在2階には電話してほしいと言われる方はいないがいつでも電話はできるようにしている。手紙のやり取りも可能だがされる方は今はおられない。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日が差してまぶしそうにしている時はカーテンをしめてテレビが見やすいようにしたり音量にも注意している。壁にも季節感を感じる事ができる装飾をしたりエアコンの温度もこまめにチェックし過ごしやすい空間になるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場でひとりになることはできないも馴染みの入居者様同士ソファで過ごされたり過ごしやすい場をご自分で見つけたり思い思いに過ごせるようにしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室にはテレビや仏壇、昔の写真を置いておられる方もいる。昔から使用しているものをお持ちされて本人が過ごしやすい空間になるように工夫している。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり居室に表札をかけている。のれんをかけておられる方もいる。トイレの目印もわかりやすく表示している。一人ひとりのできることを把握し見守り声かけでできるところまでしていただくように工夫している。		